

科目名	病気と予防			
授業形態	講義	学年	1	
開講時期	2023年度 前期	単位数	2	
担当教員	相崎 英樹、若江 亨祥、上田 竜大、吉田 弘、深野 顕人、深澤 征義			
内容および計画	<p><b>【授業概論】</b>  公衆衛生については、理念と目的、集団における健康問題に関する予防医学、社会医学の役割について理解を目指します。感染症とは何かを概説し、我が国及び諸外国で問題となっている感染症の歴史から全体像をご紹介します。これまでに人類はインフルエンザ、コレラ流行等により壊滅的な打撃を受けましたが、そこから立ち上がって来ました。今回の新型コロナの流行ではその時の経験を活かしていますが、まだまだ対応が遅れている面もあります。新型コロナウイルスワクチンの国内での認可に深く関与された先生からお話を伺います。さらに、実際に国で運用している集団レベルでの健康事象の把握方法について、感染症法に基づいたサーベイランス、環境水からウイルス情報取得について、実際に国の対策に関わっている先生から説明します。多くの国民が思い国民病として問題となってきた肝炎について病気と国の対策について学びます。さらに、呼吸器医師として実際の臨床現場で新型コロナ感染症等に対峙してきた研究者から病態、治療、予防法について聞きます。</p> <p>また、自然科学については、自然界において本質的に重要な現象を支配する法則として、発がん、免疫について、婦人科領域の癌、肝癌等を分子レベルで学びます。</p> <p><b>【達成目標】</b>  公衆衛生については、本邦における感染症を把握するシステムを知るとともに、コロナ禍で見出された問題点、それに対する各種試みの実際を知る。さらに、コロナ、ポリオ、肝炎等社会的にも大きな問題となっている感染症に対し、どのような手法で把握し、コントロールを目指しているか、国レベル・実臨床レベル（院内感染対策、地域医療）での現代公衆衛生学の理解を目指す。自然科学については、生物の最も基本的な単位である遺伝子およびその異常による病態として癌について学ぶ。成績は毎週の小試験と学年末の記述試験を合わせて評価する。</p>			
1	感染症総論（相崎英樹・厚生労働省国立感染症研究所ウイルス第二部長）			
2	感染症 各論1（相崎）			
3	感染症 各論2（相崎）			
4	肝炎、肝硬変、肝癌と国の対策（相崎）			
5	人はいかに感染症と闘ってきたか（これまでの感染症のパンデミックの歴史の概括）（深澤征義・厚生労働省国立感染症研究所細胞化学部 部長）			
6	ワクチンのおはなし～特に、新型コロナウイルスワクチンについて（深澤）			
7	環境水中のウイルス情報（吉田弘・厚生労働省国立感染症研究所ウイルス第二部主任研究官）			
8	ヒトパピローマウイルスによる発癌機構（若江亨祥・厚生労働省国立感染症研究所ウイルス第二部主任研究官）			
9	子宮頸癌ワクチンについて（若江）			
10	免疫応答機構の概要（若江）			
11	成人の市中肺炎の臨床について（上田竜大・厚生労働省国立感染症研究所ウイルス第二部研究員）			
12	咳嗽の原因疾患について（上田）			
13	感染症診療における予防と治療について（上田）			
14	薬の基礎知識(1)?（分類・適正使用など）（深野・国立国際医療研究センター、臨床研究センター産学連携推進部技術支援室 上級研究員）			
15	薬の基礎知識(2)?（創薬研究・開発など）（深野）			
教科書				
	タイトル	著者名	出版社	発行年
	随時資料を提供する。			

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/>

<b>参考書</b>	日本の感染症—明らかにされたこと、のこされた課題— 菅又昌実 南山堂 2022年	
<b>成績評価</b>		
	<b>評価方法</b>	<b>割合(%)</b>
	小テストを毎回実施する	50
	期末試験 記述式	50
<b>学習到達目標</b>	身近な感染症を知り、本人だけでなく、家族や友人の健康状態を把握できるようになる。周りに溢れる新型コロナウイルス、ワクチン等の病気の情報について、正しく理解し、判断できる知識、能力を身につける。	
<b>先修条件</b>	特になし	
<b>実務経験</b>	特になし	
<b>その他</b>		